

2013 年度前期 工学部情報画像学科 授業評価 目次

授業コード	授業科目名	開講時限等	担当教員	ページ
T1U001001	情報画像セミナー	1 年前期水曜 2 限	松葉 育雄他	T1U 1
T1U005001	情報数学 I	2 年前期金曜 4 限	岸本 渡	T1U 2
T1U007001	プログラムの設計と実現 I	2 年前期木曜 2 限	堀内 靖雄	T1U 3
T1U008001	フーリエ変換と画像	2 年前期火曜 2 限	堀内 隆彦	T1U 4
T1U008002	フーリエ変換と画像	2 年前期火曜 3 限	堀内 隆彦	T1U 5
T1U009001	回路理論 I	2 年前期木曜 4 限	関屋 大雄	T1U 6
T1U012001	電磁波と光	2 年前期月曜 4 限	久世 宏明他	T1U 7
T1U029001	計算機アーキテクチャ	3 年前期金曜 3 限	北神 正人	T1U 8
T1U030001	情報通信ネットワーク	3 年前期金曜 5 限	阪田 史郎	T1U 9
T1U031001	プログラム言語の構造	3 年前期木曜 3 限	今泉 貴史	T1U 11
T1U032001	パターン認識基礎	3 年前期金曜 2 限	津村 徳道	T1U 12
T1U033001	ヒューマンインタフェース	3 年前期火曜 2 限	黒岩 眞吾	T1U 13
T1U035001	デジタル信号処理	3 年前期月曜 2 限	川本 一彦	T1U 14
T1U060001	工業システム概論	4 年前期月曜 4 限	(斉川 夏樹)	T1U 15

授業科目名	: 情報画像セミナー
担当教員	: 松葉 育雄, 関屋 大雄
年次・開講時限	: 1 年前期水曜 2 限
授業コード	: T1U001001
授業アンケート	: 回答者数 74 人 / 受講者数 90 人 (回収率 82%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

2. 授業アンケート全体に対するコメント

本講義は情報画像学科に入学してきた新入生を対象に、本学科での勉強・研究活動を通じて将来どのような可能性が広がっているのかを感じてもらうための導入科目である。

いろいろな先生を訪問し、その先生の専門の一端に触れることに対して一定の評価がなされていると考える。

3. その他のコメントや連絡事項

少数意見として、進路を定めているので多くの先生(研究室)をまわるはどうか、という意見があった。興味のないところをまわることを疑問視する声もあった。

もちろん各学生が目指している分野は尊重するが、「興味」に基づく狭い視野でものごとを捉えようとする姿勢は決して学生にとってプラスにはならないと考える。たとえ今後一生涯希望の分野に携われたとしても、その中で少しでも幅広い知識・教養を持つことの重要性を知ってほしいと考える。

その意味で、興味の有無にかかわらず、情報画像学科の幅広く多岐にわたる研究の一端に触れられることの意義と価値をぜひ感じてもらえれば考えるし、そう感じられるよう教員一同さらに改善を図っていきたい。

作成(者): 関屋大雄

授業科目名	: 情報数学 I
担当教員	: 岸本 渡
年次・開講時限	: 2 年前期金曜 4 限
授業コード	: T1U005001
授業アンケート	: 回答者数 70 人 / 受講者数 95 人 (回収率 74%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q3. 教員の声はよく聞こえましたか? (回答 68 件)

声が聞き取りにくいとの意見が多数ありましたので、聞き取り易い様にはっきりとしゃべる様に心がけたいと思っております。

Q5. 板書, OHP, スライドなどは, 見やすかったですか? (回答 69 件)

板書の字が汚いとの指摘は、毎年指摘されており、少しずつ改善する様につけてはおります。僅かずつではありますが、改善されているのではないかと考えております。

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。 (回答 14 件)

板書をもう少しゆっくりにして欲しいとの意見がありましたが、授業範囲から考えますとこれ以上遅くすることはできません。また、同様にこれ以上例題等の解説をする時間は取れない様です。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

授業の内容が広い範囲をカバーしているため、それぞれの項目にかけられる時間は限られています。受講者は授業内容に基づいて教科書の演習問題を解いてみるなど、足りないと思われる部分を補足して欲しいと思います。

3. その他のコメントや連絡事項

後期の情報数学 2 と合わせて広い範囲の内容を扱っています。そのためもあって、それぞれの項目に割く時間が限られております。教科書の演習問題を自分で解くなどすることによって授業を補足することは必要だと思います。単位を取ることのみが目的ではないと受講者のみなさんにも考えて欲しいと思っています。

作成(者): 岸本 渡

授業科目名	: プログラムの設計と実現 I
担当教員	: 堀内 靖雄
年次・開講時限	: 2 年前期木曜 2 限
授業コード	: T1U007001
授業アンケート	: 回答者数 62 人 / 受講者数 88 人 (回収率 70%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 58 件)

アンケート結果は 4.31 であり、学科平均の 4.02 を大きく上回り、学生の満足度は高かったと言える。自由記述欄からは演習の難易度が適切であったという意見もあったが、簡単すぎて、ほとんど役に立たないという意見もいくつか寄せられた。ほとんどの学生が授業時間内に終わられるように配慮した演習課題であるが、学生の実力向上のことも考慮し、難易度については来年度の検討課題としたい。ただし、高度な演習は「プログラム演習」に委ねることとなる。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 61 件)

アンケート結果は 4.00 であり、学科平均の 3.78 を大きく上回り、理解度は高かったと言える。ただし、C 言語の学習としては入門～初中級レベルにとどまっており、高学年になって、もう少し高度な技術レベルまで学べるようなカリキュラム編成を今後、検討していきたいと考えている。

Q5. 板書, OHP, スライドなどは、見やすかったですか? (回答 62 件)

アンケート結果は 4.35 であり、学科平均の 4.47 を下回る結果となった。自由記述より、ペンタブレットによる直筆の文字や図が読みにくかったようである。ペンタブレットを使って、スライド上に記入するのではなく、ホワイトボード等に記述して補足する方が読みやすくなるが、講義室設備と受講人数の関係から、現状では困難であるため、読みやすくなる直筆メモの呈示方法を今後、検討したい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

講義時間内で理解できるような内容としており、アンケート結果の理解度も高かったが、3. のコメントで示すように、テストの成績が芳しくない学生もいた。演習が簡単だったこともあり、不十分な理解のまま、講義を終えてしまった可能性が考えられる。プログラミングが苦手な学生の理解度のベースアップの方法を検討したい。

3. その他のコメントや連絡事項

期末テストの内容を見ると、100 点 4 名、90～99 点 14 名、80～89 点 17 名と半数程度はおおむね理解していたと言えるが、69 点以下の学生も 36 名おり、プログラミングの実力が不十分と考えられる学生もいた。テストがあまりできなかったと思う学生諸君は自分で復習や演習をして、実力を身につけて欲しい。プログラミングは情報系学科の必須能力となる。

作成(者): 堀内靖雄

授業科目名	: フーリエ変換と画像
担当教員	: 堀内 隆彦
年次・開講時限	: 2 年前期火曜 2 限
授業コード	: T1U008001
授業アンケート	: 回答者数 38 人 / 受講者数 64 人 (回収率 59%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか？ (回答 36 件)

この講義のアンケート結果は、情報画像 2 コマ、3 コマ、画像科学 2 コマ、3 コマを受講した 4 グループ別に集計されるが、私がつけた成績の GPA とこの評価結果の数字の相関が 0.96 であった。つまり、学生の理解率と成績が見事に一致した結果となっている。理解できれば、成績もあがるという講義であると解釈できる。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか？ (回答 36 件)

この講義のアンケート結果は、情報画像 2 コマ、3 コマ、画像科学 2 コマ、3 コマを受講した 4 グループ別に集計されるが、私がつけた成績の GPA とこの評価結果の数字の相関が 0.92 であった。つまり、学生の満足度と成績が見事に一致した結果となっている。また、Q15 と Q16 の相関は実に 0.99 である。結論として、理解できれば満足でき、成績もあがるという講義であると解釈できる。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

毎回の演習および期末試験では、最終回答の正誤だけでなく、理解度を評価している。理解せずに他人の答案をコピー & ペーストしているのか、理解して回答しているのかは、説明の文章一字一句に現れる。授業時間中に内容を理解できるように、集中して取り組んでほしい。

3. その他のコメントや連絡事項

画像工学の立場から、フーリエ変換の理論と応用を丁寧に記述した教科書がないため、講義ではテキストを指定していない。授業では板書によって、数式の展開を一つひとつ丁寧に追いながら進めることによって、講義が終わるときには、自分のノートがテキストとなるように心がけている。また、印刷された教科書や資料をただ眺めるだけではなく、自らがノートを自発的に取りながら内容を追うことによって、より理解が深まることを狙っている。本科目は、数学の授業という位置づけではないため、単に数式上で理論を学ぶのではなく、数式と概念が結びつくことを重視している。毎回の講義の最後では、その週に学んだ内容に対して演習を行い、その結果に基づいて、翌週補足説明を行っている。

作成 (者): 堀内 隆彦

授業科目名	: フーリエ変換と画像
担当教員	: 堀内 隆彦
年次・開講時限	: 2 年前期火曜 3 限
授業コード	: T1U008002
授業アンケート	: 回答者数 33 人 / 受講者数 42 人 (回収率 79%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 33 件)

この講義のアンケート結果は、情報画像 2 コマ、3 コマ、画像科学 2 コマ、3 コマを受講した 4 グループ別に集計されるが、私がつけた成績の GPA とこの評価結果の数字の相関が 0.96 であった。つまり、学生の理解率と成績が見事に一致した結果となっている。理解できれば、成績もあがるという講義であると解釈できる。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 33 件)

この講義のアンケート結果は、情報画像 2 コマ、3 コマ、画像科学 2 コマ、3 コマを受講した 4 グループ別に集計されるが、私がつけた成績の GPA とこの評価結果の数字の相関が 0.92 であった。つまり、学生の満足度と成績が見事に一致した結果となっている。また、Q15 と Q16 の相関は実に 0.99 である。結論として、理解できれば満足でき、成績もあがるという講義であると解釈できる。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

毎回の演習および期末試験では、最終回答の正誤だけでなく、理解度を評価している。理解せずに他人の答案をコピー & ペーストしているのか、理解して回答しているのかは、説明の文章一字一句に現れる。授業時間中に内容を理解できるように、集中して取り組んでほしい。

3. その他のコメントや連絡事項

画像工学の立場から、フーリエ変換の理論と応用を丁寧に記述した教科書がないため、講義ではテキストを指定していない。授業では板書によって、数式の展開を一つひとつ丁寧に追いながら進めることによって、講義が終わるときには、自分のノートがテキストとなるように心がけている。また、印刷された教科書や資料をただ眺めるだけではなく、自らがノートを自発的に取りながら内容を追うことによって、より理解が深まることを狙っている。本科目は、数学の授業という位置づけではないため、単に数式上で理論を学ぶのではなく、数式と概念が結びつくことを重視している。毎回の講義の最後では、その週に学んだ内容に対して演習を行い、その結果に基づいて、翌週補足説明を行っている。

作成 (者): 堀内 隆彦

授業科目名	: 回路理論 I
担当教員	: 関屋 大雄
年次・開講時限	: 2 年前期木曜 4 限
授業コード	: T1U009001
授業アンケート	: 回答者数 58 人 / 受講者数 90 人 (回収率 64%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q2. 教材は授業の理解に役立ちましたか？ (回答 56 件)

本講義ではテキストを指定しており、そのテキストの内容を詳しく解説する方法を取っている。したがって、今回のアンケートの結果は私の講義の進め方に問題があることを示唆している。それと同時に、学生の本講義に対する勉強の非効率性を意味している。

今後の講義ではもっとテキストを読むことを徹底し、その内容を補足する意味で私の話があるということ強調したい。

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか？ (回答 57 件)

本講義では毎講義ごとに演習を課し、解けるまで徹底して説明する体制を取っている。したがって、本当にそこで演習をしていれば、短時間の復習で最大の効果が得られるはずである。

その意味で、予習復習時間が増えていることはいい傾向であると考えている。予習復習にかける時間の絶対値はともかくとして、それらを行うことは重要であることを今後も協調して指導していこうと考えている。

Q14. あなたはこの授業で質問をしましたか？ (回答 58 件)

本講義では演習の時間質問するチャンスはいくらでもある。多くの学生から質問があったが、こちらから声をかけないといつまでも問題を解けない学生もいた。

今後なるべく積極的に自分から質問してほしいし、逆に困っている様子が見て取れた場合、こちらから話しかけることも継続していきたい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

総じて講義のおこない方には賛同してもらえているようである。

毎年アンケート結果に答える形でマイナチェンジをして進めているのだが (変えたところを批判されることもままあるところがつらい)、来年も今年のコメントを反映させ、よりよい講義を目指していきたい。

3. その他のコメントや連絡事項

本講義の内容は決して簡単ではない。1年生の数学 (微分積分・線形代数) の「意味」を分かっていないと、と本当の意味で理解できない内容である。また、理解には手を動かすこと、実際に問題を解くこと、そしてその数をこなすことが必要であり、したがって演習問題の時間を重視している。

また、あきらかに複素数の取り扱い・計算に難があり、その傾向は年を経つごとに顕著になってきている。その辺りは本来本講義で扱う内容ではないのだが、少し数学に時間を割いて予備学習の時間を設けなければならない状況になってきているような気がする。

そのあたりも含め、最終的に「回路は工学の言語」であることがよりはっきり伝わるよう、講義内容・構成を微修正しながら進めていきたい。

作成 (者): 関屋大雄

授業科目名	: 電磁波と光
担当教員	: 久世 宏明, 入江 仁士
年次・開講時限	: 2 年前期月曜 4 限
授業コード	: T1U012001
授業アンケート	: 回答者数 65 人 / 受講者数 100 人 (回収率 65%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q2. 教材は授業の理解に役立ちましたか? (回答 64 件)

H25 年度は、昨年度は毎回の授業開始時に配布したプリントをあらかじめまとめた形で冊子にして、生協で実費で販売した。そのため、受講生が予習や復習を行うのには便利になったと考える。Q2 について「はい」と答えた学生が 20 人、「ややそういえる」と答えた学生が 18 人であり、利便性の向上が裏付けられていると考える。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

教材を冊子化したこと、また、それに沿ったスライドを準備して要点を説明する方式にしたことで、高校で光学を履修した学生にとっては、受け止めやすい内容になったかと考えている。一方、高校での履修が不十分であった学生については、より基本的な内容の資料を準備するなど、より丁寧なケアが必要かもしれない。

高校までの内容と、大学での履修内容、そして、それが光学の原理に基づく機器にどのように使われているか、の各ポイントを中心に、全体の流れを理解しやすいように今後も工夫していきたい。

なお、本講義のうち幾何光学の部分では、千葉大と提携している SSH の高校生の履修が 3 回程度あった。高大連携の講義としても活用されている。

3. その他のコメントや連絡事項

作成 (者): 久世 宏明

授業科目名	: 計算機アーキテクチャ
担当教員	: 北神 正人
年次・開講時限	: 3 年前期金曜 3 限
授業コード	: T1U029001
授業アンケート	: 回答者数 69 人 / 受講者数 91 人 (回収率 76%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか? (回答 66 件)
この項目は学科平均よりも数値が低かった。授業のスライドを事前に Web に掲載しているので予習可能だが、特に指示していないためと思われる。

Q5. 板書, OHP, スライドなどは, 見やすかったですか? (回答 67 件)
この項目は数値が高かった。スライドの内容を Web に掲載しており学生がプリントアウトするか, 授業中に自分の PC やタブレット等で参照しているためであると思われる。

Q4. Q3 の評価が「はい」でない場合, その原因に該当するもの全て選択して下さい。 (回答 26 件)
マイクを使っているが, 元々の声が不明瞭であるために聞き取りにくいようである。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

授業の予復習を行っている割合が低いので, 学生の自発的な学習を促す昼用があると考える。

3. その他のコメントや連絡事項

今後は学生が主体的に発展的な内容を学習で器用な仕組みを考えたい。

作成(者): 北神正人

授業科目名	: 情報通信ネットワーク
担当教員	: 阪田 史郎
年次・開講時限	: 3 年前期金曜 5 限
授業コード	: T1U030001
授業アンケート	: 回答者数 40 人 / 受講者数 54 人 (回収率 74%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか？ (回答 36 件)

千葉大学の情報通信ネットワーク専門の先生および他大学 (早大、静岡大、東邦大) の先生とも協力して執筆した書籍が、2006年に情報処理学会より教科書シリーズの一冊である、阪田史郎編著「インターネット・プロトコル」として出版され、授業における教科書として使用している。2008年に、これも多くの専門家の方々と共著で出版した阪田史郎・嶋本薫編著「無線通信技術大全」(リックテレコム社)を参考書として用い、今後のさらなる進展が予想される最新技術の教材にしている。

これらの教科書と教材によりできるだけ学生が内容をできるように心がけた。

さらに、講義をわかりやすくするため図面をできるだけパワーポイントで作成してスクリーンに表示することに努めたが、部屋が大きすぎるために後の学生から字が見えにくいとの声を何度か聞いた。大教室における大人数での講義の限界があるようである。前の方で熱心に聴く学生は10名程度に限られ、彼らは私が作成した Web 上の教材を出力して毎時間読みながら聴講し、質問にも的確に答え成績も極めてよかった。試験の平均は5.5点前後で毎年であるがばらつきが非常に大きい。

授業においては、小テスト、演習、事例研究、レポートをできるだけ実施し、個々の学生の興味や理解度を把握しきめ細かな教育を実践する。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

基礎学力を十分備え、かつ専門性の高い優秀な研究者、技術者を育成するための授業を進める。具体的には、大学で始めて学ぶことになる情報通信ネットワークの基本原則 (グラフ理論や待ち行列理論、電波伝搬理論、無線変調方式、Dijkstra 無向グラフ最短経路アルゴリズム、RSA 公開鍵暗号アルゴリズムなど、利用する数学的な側面も含む) や基礎知識、技術をわかりやすく説明するとともに、学生の興味を低下させないため、企業の研究所に30年間勤めた経験を生かし、激しい技術革新が続く本分野の社会に与えるインパクトや産業界の状況を説明すると同時に、産業界が求める研究者、技術者としての備えるべき専門知識や能力特に実務にも役立つ実践力もつけることを目指す。研究開発の事例や実際に製品化され実用化され世の中で役立っている事例を多く挙げながら講義し、将来の進路についても学生に役に立つ情報を提供する。今後20年の情報通信ネットワーク技術の進展方向についても話すようにした。

3. その他のコメントや連絡事項

今後の授業改善について

パワーポイントによる講義を行うとどうしても黒板に書けるスペースが小さくなって黒板に書く字や図が小さくなってしまふ。この点は毎年学生から不満が出ており、今後も後ろの方の学生からでも見やすい字や図を書くように心がけたい。

授業に満足したかという評価に対しては、毎回学科平均並みになっており、さらなる満足度向上に向けて努力したい。

作成(者): 阪田史郎

授業科目名	: プログラム言語の構造
担当教員	: 今泉 貴史
年次・開講時限	: 3 年前期木曜 3 限
授業コード	: T1U031001
授業アンケート	: 回答者数 36 人 / 受講者数 46 人 (回収率 78%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q11. 授業内容の量を考慮すると、進度は適切でしたか? (回答 36 件)

この講義は主にコンパイラの作成法に関するものであるが、コンパイラのおもしろさに触れてもらおうと、最適化の話題まで範囲としていた。最適化はハードウェアに密接に依存する部分もあるが、特殊なハードウェアに関する学習が他の授業とのタイミングで十分理解できていない状況で始まったものもある。この点を考慮し、来年度以降は最適化に関する内容を削るなどの措置を検討したいと思う。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 33 件)

Q11 に絡み、消化不良のまま終えてしまったことが原因と考えている。コンパイラの基本構造に絞り込み、アプリケーションへの応用を踏まえた構成に変更していきたい。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 34 件)

この点が低いのが一番の問題と考えている。最適化を外すことで得られた時間を演習に用いるなどして理解を深めるなどで、満足度を上げる対策を取っていきたい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

宿題がそれなりの意味を持っていることが確認でき、それでも家庭での学習時間が足りないことも認識しました。今後は、もう少し骨のある宿題も出していきたいと思えます。

3. その他のコメントや連絡事項

どうしても理解して欲しいことを重点に考えて作った期末試験でしたが、思いは届かなかったようで不満に思った方も多かったようです。次年度以降は、この反省を踏まえ、柵題していきたいと考えています。

作成 (者): 今泉貴史

授業科目名	: パターン認識基礎
担当教員	: 津村 徳道
年次・開講時限	: 3 年前期金曜 2 限
授業コード	: T1U032001
授業アンケート	: 回答者数 68 人 / 受講者数 92 人 (回収率 74%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q10. 授業では宿題, レポート等が理解を助けるのに役立ちましたか? (回答 62 件)

学生の進度をみるためにも中間テストなどを検討したい.

Q14. あなたはこの授業で質問をしましたか? (回答 65 件)

インタラクティブな授業を心がけたい.

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか? (回答 67 件)

適度に課題を設けたい.

2. 授業アンケート全体に対するコメント

毎年好評であるように, 毎回の授業の前に前回までも復習を引き続き丁寧に行いたいと思います.

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 津村

授業科目名	: ヒューマンインタフェース
担当教員	: 黒岩 眞吾
年次・開講時限	: 3 年前期火曜 2 限
授業コード	: T1U033001
授業アンケート	: 回答者数 5 人 / 受講者数 5 人 (回収率 100%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか？ (回答 5 件)

平均 4.8 とかなり高い数値でした。受講生全員が 2 回のプレゼンテーションを行う等、インタラクティブな内容が多く、大学らしい講義と受け止められており、学ぶ意欲の高い学生さんには好評のようです。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか？ (回答 5 件)

平均 4.6 とかなり高い数値でした。認知科学的な要素の強い講義内容であるため、コミュニケーション能力の高い、もしくはコミュニケーション能力を向上させたいとの意欲がある学生さんには理解しやすい内容のようです。

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか？ (回答 5 件)

プレゼンテーションがあるため通常の授業より予習時間が増えるように想像する学生さんが多いようですが、実際は通常講義での予習が必要無い為、平均の予習・復習合計時間は通常講義と同程度になっているようです。ただ、プレゼンの準備に時間をかけた学生さんの発表の評価 (学生間の相互評価) は高い傾向があります。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

プレゼンテーションを 2 回、加えて期末試験もあるという講義で敬遠する学生さんが多いようですが、受講した学生さんの満足度は非常に高い内容です。学生さんの発表は斬新なアイデアが多く非常に面白い内容で、質問も飛び交いかなり活気のある授業になっています。また、他の人の発表を評価するということが、自分の発表の大きな改善につながっているようです。

3. その他のコメントや連絡事項

単位をそろえることを目的として受講する学生さんにはお勧めできませんが、人に役立つことがしたいと考えている学生さんにはお勧めの講義です。

作成 (者): 黒岩眞吾

授業科目名	: デジタル信号処理
担当教員	: 川本 一彦
年次・開講時限	: 3 年前期月曜 2 限
授業コード	: T1U035001
授業アンケート	: 回答者数 34 人 / 受講者数 48 人 (回収率 71%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q9. 例題, 例え話やサンプル等がわかりやすかったですか? (回答 31 件)

およそ 4 割の受講生は「はい」と回答してくれたが, 一方で自由記述で「その場でより分かりやすい例を考えようとしたときに, きちんと淀みなく説明できていたときと比べ, 分かりにくかった」という意見もあった. 授業中にふと思いつき, 話を脱線させることは対面授業ならではの面白さで継続していきたいと思うが, それをメモしておくなりして, 来年度の授業に活かせるようにしていきたい.

2. 授業アンケート全体に対するコメント

3. その他のコメントや連絡事項

概ね評価はよかったと思うが, 準備学習・復習に時間をかけている学生が少ないのが気にかかる. 事前に概要を説明するビデオなどを用意し, 準備学習を促進するようなことを試みたい.

作成(者): 川本一彦

授業科目名	: 工業システム概論
担当教員	: 斉川 夏樹
年次・開講時限	: 4 年前期月曜 4 限
授業コード	: T1U060001
授業アンケート	: 回答者数 14 人 / 受講者数 20 人 (回収率 70%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q5. 板書, OHP, スライドなどは, 見やすかったですか? (回答 13 件)

平均 4.69 です。内容が企業活動に関する実践的な内容ですので、講義のスライド、教材、補助教材等は出来るだけわかりやすく系統だったものにするように努力しました。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 13 件)

平均 3.62 です。個人毎のばらつきが大きい結果でした。内容が多岐にわたり、実践的な内容も多く含まれているので、授業中に理解する努力をしないと講義を理解するのが難しいと考えています。

Q16. 全体を通して, この授業に満足しましたか? (回答 13 件)

平均 3.85 です。授業の理解度と関連すると考えています。できるだけわかりやすく、説明することを心がけたいと考えています。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

現代の企業活動を IT の活用、リスク管理、情報セキュリティの側面からケーススタディを中心に実践的な内容を学習することを意図しています。アンケート結果全体からはほぼ授業目標は達成していると考えています。ただ、宿題のレポートや期末テストの結果を確認すると、理解が浅い面があることは否めないと思います。受講生の理解度を上げる努力を継続したいと考えています。

3. その他のコメントや連絡事項

社会に出てからも役立つ内容を多く盛り込んでいますので、積極的に授業に取り組んでいただきたいと希望しています。質問がいつも少ないので、質問大歓迎です。

作成(者): 斉川夏樹